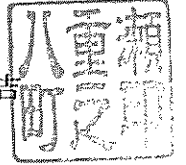




八重都第 37 号
平成 19 年 5 月 7 日

国土交通省道路局長 殿

八重瀬町長 中村 信吉



中期的な計画の作成にあたってご意見の提出について(回答)

みだしのことについて、平成19年4月2日付け国土企第114号の調査依頼について別紙のとおり報告いたします。

中期的な計画の作成にあたっての意見書

重点化を進める上で特に優先度の高い政策

○ 地域の自立的発展を支援する道路ネットワークの整備

本町の道路体系は、広域的な幹線道路である国道331号、507号をはじめ、主要地方道などの県道、町道が縦横に走り、島尻地区の重要な交通ルートを形成しています。

本町は、南風原南ICの共用開始により中北部から南部広域への交通拠点として位置づけられている状況であり、南部戦跡や南部の海浜及びゴルフ場等などへの観光ルートのアクセス道路として国道331号、507号が主要幹線道路となっておりその道路ネットワークの整備が強く求められている。

また、南部を横断する県道糸満与那原線(県道77線)も地域住民から急がれている状況にあります。

○ 都市間を結ぶ幹線道路の整備

那覇具志頭線(国道507号)は、那覇東バイパスを起点とし八重瀬町島尻教育事務所付近まで都市計画道路として平成5年2月に決定され整備事業が行われておりますが、本町は近年、田園都市化として発展しており、都市部への通勤、通学、医療施設やその他施設等、また、地域農水産物の出荷等の主要幹線道路として国道507号は位置付けされておりますが朝夕の交通渋滞が慢性化し都市部を結ぶ幹線道路としての機能が失われつつあり地域の発展と交通安全に支障をきたしております。また、国道507号と国道331号は、国内を代表する那覇マラソンコースとして利用されている事から健康増進道路として位置づけ、整備すれば健康増進はもとより観光に大きく寄与するとともに南部を縦断する唯一の国道であり、早急に整備することが八重瀬町を初め南部地域の発展に大きくつながると思われます。また、本町は、都市近郊で立地条件を生かした農業・水産業の盛んな地域で出荷量も県内でも上位をしめており鮮度の確保と交通安全の確保、地域産業、また、都市地区との格差のある生活環境を改善と物流のスピードアップを図る観点からも国道507号と331号の早期整備を望む声が多数あります。

○ 交通拠点までのアクセス強化のための道路整備

国道507号が南風原町津嘉山から八重瀬町屋宜原までの一部区間について沖縄サミットの関連道路として平成12年6月に共用開始され、年々増え続ける観光客と又、観光客の移動手段であるレンタカーなどの交通量増に対する本町の主要幹線道路である国道507号と国道331号の整備進捗状況が悪くアクセス道路としての交通安全対策を含め早急な整備が求められております。

○ 地域の整備計画と一体となった道路整備

本町においては、伊覇、屋宜原地区の区画整理事業が行われており国道507号を骨格とした道路整備を実施している状況であります。現在国道507号の中央分離帯がコンクリート舗装され緑がなく地域住民から植栽等の要望が出されております。また、京都議定書において6%削減に向けた道路の植栽として排出ガスからのCO₂を吸収させる観点からも植栽は必要不可欠と思われます。

重点化を進める上で重視すべきこと

- 道路事業の計画から実施(事業化)までの過程を効率化しスピードアップを図る
道路の計画から実施までのスピードアップにおいては本町及び、地域住民からも課題とされており、本町としても計画実施に時間を要し苦慮している状況にあります。
国・県・町の整備構想を総合的に協議し、南部広域を含めた整備構想が必要になってくると思われます。本町としても八重瀬町総合整備計画を平成19年度中に完成させ、国・県・町を含め地域の意向を鑑み実施したほうが良いと思われ
ますが、地域とのコンセンサスとるのが大事なことであり、本町としましても、町が中心となり地域との協議、推進を積極的に進めていかねければスピードアップを図ることは難しいと思われ
ます。